

*** 今日の健康 (11月) ***

<新型ノロウイルス 2015>

ノロウイルスは、乳幼児から高齢者にいたる幅広い年齢層の急性胃腸炎の病原ウイルスで、特に秋から春先にかけて流行します。ノロウイルスは非常に感染力が強く、少量のウイルスでも人に感染し発病します。

2015年のはじめから新たな変異型ノロウイルス (GII. 17) が流行しています。過去にもノロウイルスは変異型ウイルスの出現により、過去に大規模な流行を繰り返してきました。近年までは主として GII. 4 が流行していたため、免疫を持つ人が増え、大流行になることはありませんでした。しかし、この変異型ノロウイルス GII. 17 には、ほとんどの人が免疫を持っておらず、広く流行する恐れがあるとのことです。



症状：潜伏期間は24～48時間で、嘔気・嘔吐・下痢で、軽い発熱を伴うこともあります。嘔吐の回数は1日10回以上となる場合もありますが、高齢者などを除き重症化することはまれです。

参考：類似症状の下痢症にロタウイルスがあります。ロタウイルスの主な症状は嘔吐・下痢・発熱で、熱は38度以上となる頻度が高いです。激しい嘔吐・下痢による脱水で、酸味の発酵臭がある白色水様便が特徴的で、便の色が診断基準のひとつになります。

流行時期：ノロウイルスは初冬(11月～1月)に流行がみられ、これと入れ替わるように早春(2月～4月)にロタウイルス流行します。

感染経路：排泄物や嘔吐物に含まれるウイルスは、接触感染だけでなく、空気中にも舞い上がり、空気感染もします。感染者の体に触っても感染しませんが、触った部分にウイルスが付着していれば、触った人の手にもウイルスが付着します。その手で目や鼻などの粘膜面を触れたり、手づかみで食事を摂れば、体内にウイルスが侵入し、感染することになります。

(1) **人から人への感染：**ノロウイルス感染者の吐物・便中にウイルスが含まれています。ウイルスが手などについて口から感染する場合や、嘔吐時には広範囲に吐物が飛び散るため、その飛沫が体につき、手指などを介して感染する場合があります。

(2) **人から食品、そして食品から人への感染：**食品取扱者の手を介してウイルスが食品につき、それを食べて感染することがあります。

(3) **食品から人への感染：**カキの生食や中心部の加熱が不十分場合など、二枚貝を生で食べることによって感染します。

治療：嘔吐がある場合は無理に食べさせず、水分を少しずつ与えましょう。電解質濃度の高いイオン飲料などを摂取し脱水症を防ぎましょう。有効な抗ウイルス薬はないため、吐気止めや整腸剤を使った対症療法が中心となります。

予防方法：接触感染、空気感染により感染するので、

(1) ①手洗い、②患者の隔離、③糞便・おむつ・吐物の適切な処理

(2) 汚染された服や床などの塩素系薬剤による消毒

消毒にあたっては、アルコールやエタノールでは殺菌効果はありません。「85℃以上で1分以上の加熱」と「次亜塩素酸ナトリウム」による消毒が効果的です。家庭にある「塩素系漂白剤」には次亜塩素酸ナトリウムを含むものが多いので代用できます。

[「ノロウイルスに関するQ&A」厚生労働省](#)

[「ノロウイルスとは」東京都多摩小平保健所](#)

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861

天文台通り多摩信用金庫のななめ裏